

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 令和6年9月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 県内全域で刈取り作業が進んでいます。刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを終えましょう。
- ◆ 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努めましょう。
- ◆ 胴割粒の発生防止のために、丁寧な乾燥を心掛けましょう。
- ◆ わらの分解を促進するため、秋の早い時期に稲わらのすき込みを行いましょう。
- ◆ 日没が早まる時期なので、無理をせず安全第一の農作業を心掛けましょう。

1 県内の刈取り進捗状況

- (1) 刈取り始期（10%）は、平年より8日早い9月16日頃と推定されます。
- (2) 9月19日現在、県全体の水田の28%で刈取りが終了しており、地帯別では、北上川上流29%、北上川下流27%、東部42%、北部22%となっています。

表1 県内水稻の刈取り状況（9月19日現在、各農業改良普及センター調査）

	進捗率(%)		本年（月/日）			平年（月/日）			平年差（日）
	本年	R5	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期
北上川上流	29	23	(9/16)			9/23	10/4	10/15	(-7)
北上川下流	27	21	9/16			9/24	10/3	10/12	-8
東 部	42	27	9/12			9/23	10/1	10/12	-11
北 部	22	19	(9/16)			9/26	10/5	10/17	(-10)
県 全 体	28	22	(9/16)			9/24	10/3	10/13	(-8)

- 1) 県全体…地帯別の水稻作付面積比による加重平均。
- 2) 刈取り時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90% の水田で終了した日。
始期（括弧書き）は、9/19現在で未到達の市町村を含むため暫定値。
- 3) 平 年…平成26年～令和5年の10ヵ年の平均値。

2 品質確保に向けた収穫対策

- (1) 現在ほとんどの圃場で刈取り時期を迎えています。刈遅れは着色粒・胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを行います。
- (2) 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、丁寧に刈取ります。また、水口付近など、周りと比べて生育等が著しく異なる部分は刈分けし、玄米品質の均質化に努めます。
- (3) 例年10月には台風の発生が多い時期です。台風接近前は農作業安全に留意しつつ、可能な限り刈取りを終えるとともに、通過後は速やかに作業開始できるよう、排水対策を徹底します。なお、技術対策の詳細については9月20日発行の「号外 台風対策」を参照してください。

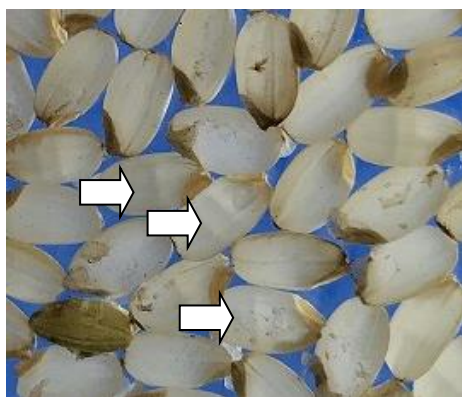


図1 胴割粒（矢印）



図2 乳白粒（矢印）

3 乾燥・調製の留意点

（1）胴割粒の発生防止

- ・ 火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率（毎時乾減率）を0.8%以下とします。
⇒ 乾燥速度を上げすぎると胴割粒が発生するため、急激な乾燥・過乾燥に注意します。
- ・ 4%以上の水分差がある粳を一緒に張り込むことは避けます。
⇒ 粳水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して粳水分の均質化を図ります（二段乾燥）。
- ・ 自然乾燥（ハセ・棒がけ）は2週間以内を目安とし、時々掛け替えして乾燥を促します。

（2）粳すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 肌ずれを防止するため、玄米水分15.0%以下の適正水分で粳すりを行います。
- ・ ゴムロールのすき間は、粳の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。
- ・ 脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

（3）ライスグレーダー

出荷製品用は、LL（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上に仕上げます。

4 秋耕起（稲わらの腐熟促進）

- （1）稲わらの秋すき込みは、春すき込みに比べわらの分解が進むため、入水後の「わき（硫化水素や温室効果ガスであるメタン）」の発生や窒素飢餓による水稻の生育抑制を軽減できます。わらの分解は、地温15℃以上で促進されますので、秋の早い時期にすき込みできるよう、適期刈取りに努めましょう。
- （2）稲わらの腐熟促進を図るための耕起は、5～8cm程度の浅耕とします。
- （3）切りわら散布後、腐熟促進肥料（石灰窒素の場合、10aあたり現物15～20kg）または家畜ふん堆肥（窒素換算で5kg/10a、発酵豚ふんや鶏ふんなどC/N比が低いものが望ましい）を施用してすき込むことで、わらの分解が一層促進されます。
- （4）湿田では、わらはたい肥化して施用することが望ましいですが、困難な場合は稲わら等のすき込み後、排水溝の設置などにより地表水の排除に努めましょう。

5 農作業安全

日没が早まる時期です。夕方に事故の発生が多いので、計画的かつ慎重な作業を心がけます。

- ・ 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や車の追突事故に注意しましょう。
- ・ コンバインにワラ等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行いましょう。
- ・ 夜光反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止しましょう。

次号は10月31日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**ひと休み 急がば回れ 農作業
ゆとり忘れず 安全管理**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。